

読書新聞

(第3種郵便物認可)

専門外の本にふれる意義を考える読書イベント「将来リーダーになる君へ」が京都大学で開かれた。自然科学、人文社会科学、それぞれの分野で世界的な業績を上げた佐藤文隆・京都大学名誉教授、山内昌之・東京大学名誉教授が、自らの学生生活を振り返りながら、どのように本を選べばいいのか、読書から幅広い素養を身につける大切さを説いた。

(コーディネーターは中西竜也・京都大学特定助教)

中西 時間と空間を超えて、多様な価値観にふれながら思考力を育むには読書が大切だと思います。佐藤先生は、自分の専門外の本に、どのようにして巡り合ってきたのでしょうか。

佐藤 本が学問の入り口、文化の入り口と呼べるような時代に青春を送り、本屋が軒を並べていた百万遍や熊野神社に足しげく通いました。書店に行かない日は、その日一日落ち着かない気分になるくらい。それが乱読につながり、専門外の本を手にするようになったと思いますね。

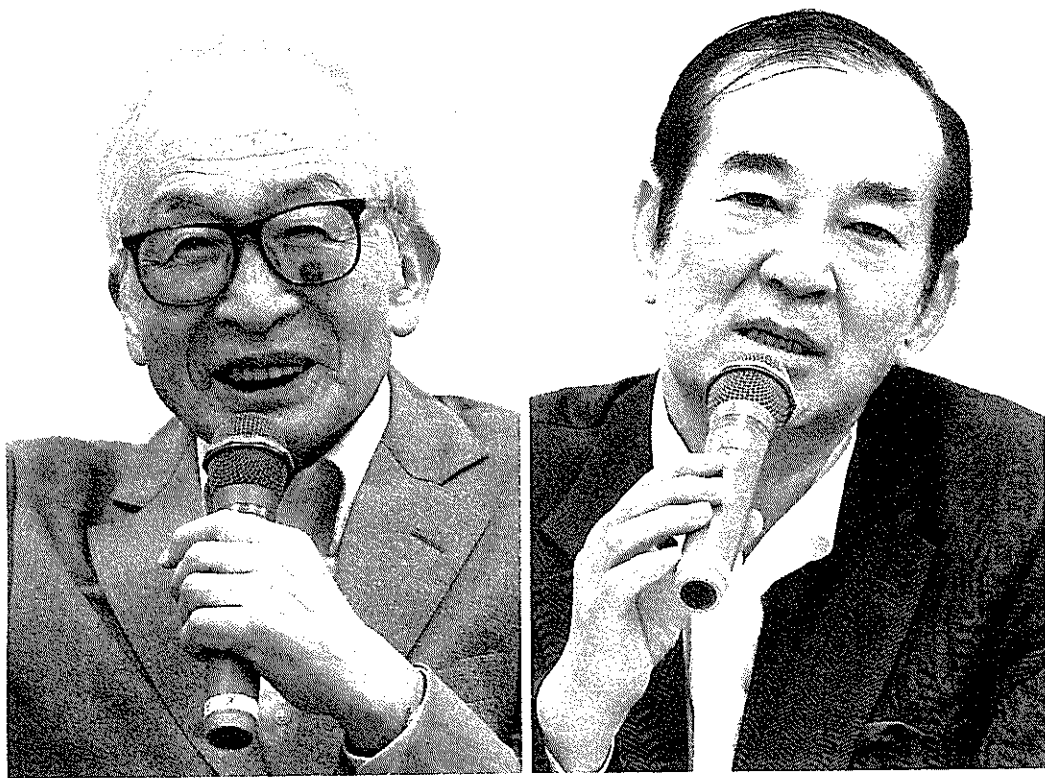
中西 どのように選書すればいいのでしょうか。

山内 何を読むべきかと問われれば東西の古典です。自分の思考方法が間違っていないかどうかを確認する際に古典の知恵が大変役に立ちます。そして、今は文系、理系問わず、教養を生きたものにするための本を網羅したブックガイドを出している大学も多い。日曜日の新聞各紙には書評欄も掲載されていて手がかりを与えてくれる。

中西 ただ、専門外の本だと、理解できずに挫折してしまう学生もいます。

本読み直す大切さ

今、理解できなくなっている



さとうふみたか 京都大学名誉教授 佐藤文隆

1938年生まれ。京都大学理学部物理学科卒業。同大理学部長、日本物理学会会長などを歴任。「富松一佐藤の解」で仁科記念賞。

やまうちまさひさ 東京大学名誉教授 山内昌之

1947年生まれ。東京大学学術博士。専門は国際関係史・イスラム地域研究。読売新聞東京本社調査研究本部客員研究員。

佐藤 最近はずいぶんハツツイ物が増えて分かりやすい本が増えてます。けれども、本来、本というのは完全にわからないものであ

って、書いてあることが全てわからなくてもいいのです。ただ、わからないものを捨てるのではなく、取りあえずポケットにしまっておくことが大切です。

山内 「エッセー」のモニターにも言っていますね。「わからないところを、いつまでも立ちつくしていつかは時間をもたない」と。大学一年、二年で、いきなりトライしても理解で

きないというのは当然です。読めないところは取りあえず飛ばして、時間をおいて読み直してみよう。そうすると不思議なことに読めるようになっていくことが多い。

中西 ここからは会場の学生から質問を受けたと思います。

学生 古典を読んでイン

プットし、それをどうやってアウトプットしていけばいいのでしょうか。

佐藤 友人同士で議論するのが一番だと思います。昔はインターネットもないし、テレビもない。その代わり、時間だけはたっぷりあった。学生同士で七賢人の会という集まりをつくって、朝永振一郎量子力学読書会から始め、日頃読んでいた本、新聞記事について

もエンゲルスの「空想より科学へ」を手にしたし、友人同士で政治問題について長々と議論することがあった。そういうことが今の学生にできなくなっているのはなぜでしょうか。

山内 一言で言うと、繁栄と自由の代償でしょうね。物事に対する飢餓感を失ってしまった。知的な好奇心というのは、ある種、飢餓感がないと発展しない。東大で教鞭を執るようになって、すぐに共通一次試験が始まりました。このあたりが代代的な転換点になっていると感じます。私なら受験科目が文系なら文系科目だけ、理系なら理系科目だけで済んでしまおうということもある。

学生 アリストテレスの「神学」という本に「活動は能力に先立つ」という印象的な言葉があります。人前で、そういう場面があったら教えてください。

佐藤 京大に入って、湯川秀樹という人間に出会ったことですね。一緒に屋敷を取るような生活を十数年続けて、いろいろな影響を受けました。たばこを吸う姿が格好良く、ゴホンゴホン言いながらたばこを覚えたし、湯川さんに漢文



*コーディネーター 中西竜也氏 1976年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程 研究指導認定退学。専攻は東洋史学。

の素養があったことにショックを受けて、急に「荘子」を読み始めたこともありました。あまり普遍性はないかもしれないけれど、そこまで付いていきたいという人間に出会ったことは大変な幸せです。

中西 なぜ本を読まなければいけないのか、改めてお聞きしたいと思います。

山内 幕末の志士に大きな影響を与えた吉田松陰は「私はいつも歴史を読み、いかに人の行いを観察し、自分の志を励ましてきた」と言っている。徹底して抽象的な議論をした革命家のように思われがちだけれど、吉田松陰は歴史を非常に重要視していた。理屈というのはいさばしは不確かです。国民や国のために官僚になるにしても政治家になるにしても、歴史や事実に関する知識が不可欠です。切に願っています。

（6月6日、京大付属図書館で）

将来リーダーになる君へ 専門外の専門書を読む

主催 京都大学付属図書館 京都大学学術出版会 協力 活字文化推進会議